

最新技術を交流 札幌など 同時配信 日測協 イノベーション大会



札幌会場では延べ30人余りが参加した

日本測量協会（清水英範会長）は6月30日から2日間にわたり、東京大学伊藤国際学術研究センターを主会場に「測量・地理空間情報イノベーション大会2026」を開催した。札幌など全国9カ所のサテライト

会場にも同時配信され、双方で最新技術について交流。専門的知識を高めるとともに、人材育成に関する実践事例についても共有した。

初日は準天頂衛星システム「みちびき」の最新動向、宇宙航空研究開発機構と国土地理院が運営する国際GNSS事業（IGS）の解析センター「JGX」の取組について内閣府、国土地理院の担当者が説明。人材育成に関する講演、企業の実践事例発表も行われた。

2日目は「三次元計測コンサルタントへの道」をテーマにセッションを実施。基調講演やパネルディスカッションを通じ、3D GISの活用例や今後の展望について見識を深めた。スマートフォンを用いた3次元測量の現状、3D計測の技術動向と今後の展望についても最新の知見を共有した。

このほか、2日間の大会では「ソクジョの会」が活動報告。衛星データとAIを組み合わせた技術の社会実装に向けた最新の動向、各種業務へのAI活用の実践事例についても発表が行われた。

今月21日から8月18日にかけては、特設ウェブサイトでオンデマンド配信。今回の内容に加え、ダム堆砂測量や3Dモデルを活用した道路計画、農業・森林分野における空間情報の活用等に関する講演等を予定している。